令和7年度第4回亀岡市地域公共交通会議（令和8年1月30日開催） 議事要旨	
議事　（１）ふるさとバス別院コースの経路変更について （２）地域間幹線系統補助に係る令和７事業年度の事業評価について その他	
議事（1)ふるさとバス別院コースの経路変更について	
委員 （京阪京都交通）	3月14日の改正に合わせてバス停の移設準備を進めるが、バイパスの開通が3月15日の午後の予定と聞いている。そのため、15日当日は新旧どちらの経路を通るかなど、切り替えのタイミングについては現在調整中である。
副会長	新しく設置する刈又バス停について、この位置に決めた理由は何か。また、東別院グランド前バス停を移設して石田梅岩記念館バス停にするとのことだが、東別院グランド前バス停も残して2箇所にすることは無理だったのか。
事務局	まず、刈又バス停の位置については、地元自治会と調整した結果である。皿谷バス停から刈又バス停設置予定地の間の道沿いに住宅が数軒あり、今後の利用が見込まれることから、地元の提案および地権者の了解を得て、利便性が最も高いこの位置に決定した。 次に、東別院グランド前バス停についてであるが、移設先の石田梅岩記念館バス停との距離が非常に近く、またグラウンドには入り口が2箇所あり、記念館側にバス停を移設しても、もう一方の入り口へのアクセスは十分確保できるため、運行効率の観点からも1箇所に統合して運行することとした。
会長	石田梅岩記念館のバス停名の下に副称として「東別院グランド前」と残す等の配慮があっても良いかと思ったが、事情は理解した。他に意見がなければ、本件は協議がととのったものとする。
議事（2)地域間幹線系統補助に係る令和7事業年度の事業評価について	
委員 （地域住民の代表）	資料にあるA・B・C評価の基準は、具体的にはどうなっているか。 また、目標の30%という数字は、どのような数字か。
事務局	評価基準は、収支率が30%以上ならＡ、20%以上30%未満ならＢ、20%未満ならＣと設定している。収支率は、経常収益を経常費用で割って算出している。
委員 （利用者の代表）	一般的にバス路線の収支率は、何％くらいなのか。
委員 （京阪京都交通）	収支率100％を超えれば黒字となる。亀岡市内で言えば、大学等の路線は黒字だが、馬堀線などの路線は赤字である。
副会長	バスの乗り方教室について、具体的にどのような内容を伝えているのか教えてほしい。
事務局	令和6年12月に大井小学校で実施した際は、実際にバスを配車し、整理券の取り方や運賃の支払い方を体験してもらった。令和7年5、6月に大井小学校、千代川小学校で実施した際は、6年生を対象に、市の予算や公共交通の仕組みについての講義を行ったほか、バスの乗り方リーフレットを配布して周知を行った。
会長	評価指標について、収支率は運行の効率性を評価するために重要な指標であるが、利用者数や、人口あたりの利用人数といった数値も重要である。次回以降はそういった、どれくらい住民の役に立っているかが分かる指標も検討してほしい。
委員 （地域住民の代表）	事業評価の内容は公開されるのか。
事務局	今回の内容はホームページ等で公開し、市民の皆様にも見ていただけるようにする。
会長	事業評価の結果は国へ提出する必要があり、国においても第3者評価等を実施されるものである。事業をやめるかどうかだけではなく、こうしたらもっと良くなるということを話

	し合う場でもある。
委　　員 （地域住民の代表）	確かに、数値の上下だけを見るのではなく、どういう施策をうっていくかということも非常に重要である。
委　　員 （地域住民の代表）	資料にある「その他補助」の事業については、今回評価しないのか。
事　　務　　局	今回、国に報告が必要なのは「地域間幹線系統補助」の対象事業のみである。その他は国補助の対象外の事業であり、この場での評価の対象ではない。
委　　員 （京都運輸支局）	事業評価は、国庫補助を受けている路線について、PDCA サイクルを回して改善していくためのものである。これまでは市町村をまたがるため府県単位で実施していたが、より地域に根ざした議論をしていただくため、市町村単位の協議会で評価いただく形とした。今回使用している「近畿様式」という様式も、単なる数字だけでなく、具体的な取組内容を可視化するために導入している。6 月には次期計画の提出が必要なため、今回議論した内容についても、その際に活用いただきたい。
会　　長	他にご意見がなければ、本件についても協議がととのったものとさせていただく。
その他	
特になし	

以　上